

場所と領有の特性からみた公共空間の居場所化に関する研究

- 公園における青空将棋道場をモデルケースとして (1)

正会員	○奥本裕美子*
同	齊欣*
同	芝野有祐**
同	横山俊祐***
同	徳尾野徹****

青空将棋道場	公共空間	居場所
高齢者	共助	領有

1. 研究の背景と目的

長寿化が進む一方で、高齢者の存在意義と居場所、そして人との繋がりが失われている。そのような環境は、高齢者の生きがいを失わせ、結果として健康まで失わせる可能性もある。居場所の喪失や孤独感に悩む高齢者は増加し、人々とのつながりへの必要性は高くなっている。

大阪では、大衆文化として 1970 年以前から縁台将棋が行なわれ、他人同士で対局するという文化が存在していた。それも昭和 30 年代から娯楽の多様化の中で消滅していったが、子供の頃縁台将棋を指していた人たちの退職を期に青空将棋が始まったとされる。

本研究では、公園という公共の場を領有して、高齢者自らが主体的に活動している「青空将棋」を高齢者の居場所のモデルケースとして位置づけ、場の特性や人々の関わり方を通して、青空将棋による高齢者の公共空間での領有の仕方、居場所化の工夫・特徴を探る。

2. 調査概要

2-1. 調査方法

大阪市内の公衆トイレのある公園・緑地・緑道・霊園・公衆トイレ周辺・河川敷等 220 地点を対象とし、ヒアリング調査を行った。

2-2. 「青空将棋道場」の概要

現在、「将棋」を介して人々が集まる場所は、将棋クラブやサウナ、老人福祉施設などがあるが、「青空将棋」とは、公園や緑地、遊歩道など屋外で将棋を指す人々の集まりを指す。青空将棋の発生は様々だが、多くの場所に自然発生的に出来た。そこは誰もが気軽に参加できる場所であり、高齢者が集まる憩いの場所となっている。

その「青空将棋」中でもその場所を仕切る「主」が存在する場を「青空将棋道場」と呼ぶ。青空将棋道場では、自らが自分たちのために行事を企画し、問題が起こるのを事前に防ぐ為の規律を定め、場を運営している。そこには、将棋クラブや福祉センターではみられない様々な高齢者同士の共助の姿がみられる。公共空間の領有の仕方には様々な工夫が見られる。

3. 青空将棋の実態

3-1. 分布の特性

大阪市内の公園、緑地、遊歩道の合計 35 地点で青空将棋が存在した。都心部である環状線内を除き、市内全体に広く分布している。多くの人が散歩に訪れる広い公園や幹線道路付近の人通りの多い公園に見られる。また、古くから居住地であった場所は高齢者が外出しやすい環境があるために多くの参加者が見られた。また、千里ニュータウンなどには青空将棋は存在せず、縁台将棋の消滅期の昭和 30 年以降に街開きし、働き盛りの人々が移り住んだ千里ニュータウンには、屋外で将棋を指すという文化は持ち込まれなかった。

3-2. 青空将棋の組織形成

青空将棋は規則や会費の有無など、場所によって様々な違いがあり、3つに分類され、青空将棋は、「①身内」→「②組織化されていない道場」→「③組織化された道場」と変化する。「身内」とは、元々知り合いの数人で将棋を指している状態であり、青空将棋道場はこのような状態から始まる。また、組織とは会長を主体とし、会費制度をもち、会員を管理し、運営する形態のこととする。組織化されていない道場とは、場の「主」が存在しているが、明確に役職を決めていない状態。会費や行事などはないが、道場に暗黙のルールが出来ている。

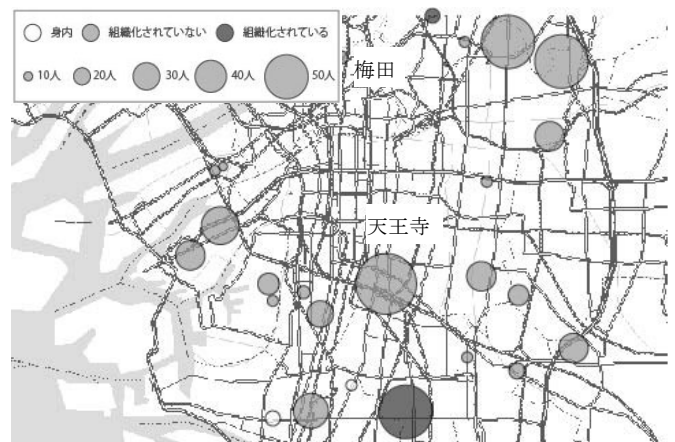


図 1. 青空将棋の分布と組織形成

A Study on the whereabouts of public space as seen from characteristics of the location and territorial

- Aozora Shogi Dojo as a model case in park(1)

OKUMOTO Yumiko, QI Xin, SHIBANO Yusuke
YOKOYAMA Shunsuke, TOKUONO Tetsu

3-3.規程

青空将棋道場にはその場ごとに規則があり、その場所が居心地の良い場所であり続けられるように定められる。組織化された将棋道場では、駐輪場所や道具の持ち帰りの徹底など、特に周囲に迷惑をかけないよう配慮されている。

表 1.規程の例

長居公園将棋倶楽部	明石公園扇会
以下の規則に違反した場合、会員資格が排除される。 1. 将棋、囲碁、賭け事の禁止。 2. 駒、将棋盤、椅子、台座を使用される方は役で。 3. 公園敷地内の立小便の禁止。 4. 煙草のポイ捨ての禁止。 5. 自転車、バイクの駐輪場所以外での駐輪禁止。 6. 将棋、囲碁が終わった後の公園敷地内の清掃務。 7. 将棋用具、椅子、台座の持ち込み持ち帰り厳守。 8. 喧嘩、揉め事を起こした会員。 9. 市民に不用意に声をかけて迷惑をかけた会員	1. アルコールの持ち込み禁止。 2. ベットの連れ込み禁止。 3. テーブルの移動禁止（雨天は除く）。 4. 午後二時以降のストーブでの焼き物禁止。 5. 照明は十七時三十分まで。 6. 最後の方はストーブ及び施錠確認。

3-4.会費

会費は、年会費を会員から集金し、行事や備品などに使用される。会計が管理し、会員監査から承認される。

4.場の領有の特性

4-1.場の条件

公園には様々な条件があるが、青空将棋をすることに於いて、好まれる条件がいくつかある。日陰や周囲が囲われていることなど、快適に集中して行うことができることが重要である。

4-1.場のしつらえ方

青空将棋では、公園にある備品を利用して行なわれるが、さらに快適性を求めて、各々が主体となって皆のために場をつくっている。表 2 のように、青空将棋の場のしつらえ方は指す場所の環境に合わせて、9種類のもがみられた。公園の環境において、最も青空将棋に適していると思われるのは、ベンチテーブルである。それが公園では、ベンチを机として利用し、将棋台や椅子は持ち寄るという工夫も見られる。また、パーゴラを改良することによって、日陰を増やしたり、日陰のない公園ではテントを設営するところもみられた。このようなしつらえは場の快適性を高め、その周辺に人が集まる。さらに、寒い季節は薪を割って火を用意する、お湯を沸かすなど、将棋を指すことなく、皆のために場を用意することがこの場所の意味になり、もはや青空将棋道場が将棋を指すだけの場所でないと言える。

表 2. 場のしつらえ方

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
公園の備品	ベンチ	ベンチ	ベンチ	ベンチ	ベンチ	ベンチテーブル	なし	なし	なし
自前の備品	なし	椅子(観戦用)	将棋台	将棋台・椅子	机・椅子	なし	シート	机・椅子	縁台

表 3.場の改良

行為	モノ	お金
・定期的に絵や文字を描き、道場に飾る ・朝一で来て、机や椅子を並べ、場所を作る ・薪を切って火を用意する ・公園管理者との折衝 皆のためにポットのお湯を沸かす ・食べ物を分ける(芋を皆に焼くなど) ・行事の企画・運営	・テーブルや駒等の備品を作成する ・仲間のために酒等を買ってくる ・備品を共有する	・空き缶を集め、換金 行事や備品等の費用負担 ・お金を出しあってタープやテントを設置 ・薪や灯油、蚊取り線香など 消耗品の購入

また、表 4 のように、青空将棋は場所を改良するために多くの共助が行なわれている。他の人を助けたり、助けられることで、自分の居場所化をはかり、自ら主体的に場所づくりをしていこうという思いにつながっている。

5.まとめ

青空将棋は将棋を媒介として高齢者同士を結びつける場として機能していた。

公共の場所である公園で将棋を指すことで、普段では対局しない人とも関わりが持てる。多くの高齢者が社会からの疎外感に悩むと言われるが、公共空間を利用することによって、社会との関わりを持ち続けることが出来る。もうひとつ、集団意識が生まれ、共助が実践される。

青空将棋道場は、組織化されることによって、その組織の一員としての役割が生まれる。それによって、その組織が維持され、また、その青空将棋がより良い環境で行なわれるよう、会員の意見のもと各々が改良を行っていく。公共の場であるからこそ、誰でも集まることができ、またモラルも必要となる。そこから規律が生まれ、会費を集金することでそこに新たな共通する責任が生まれ組織として運営されるようになる。さらに規律だけでなく、自主的な行為が生まれることによって、自らの役割を持ち、居場所をつくることができている。

青空将棋の場は、ただ将棋を指しに来るという目的だけではなく、そこにいる人達による自主参加型の交流の場となっている。この青空将棋道場に通う人達にとって、その場所は欠かせない自分の居場所となっている。その多様な場の中から、高齢者が自分にあった場を選択できるという点からも、高齢者自身が居場所をつくる事の意味を見いだせる。

また、公共空間を他の利用者と共にしつつ、領有するためには様々な工夫が為されてきた。将棋をするために好まれる空間があり、さらに自主的に快適な空間をつくりあげてきた。青空将棋を通して、公共空間で居場所化をはかり、それを維持管理・運営するために組織化をする。青空将棋とは、公共空間の新しい自発的な居場所形態のモデルケースとなり得ると考えられる。

*大阪市立大学大学院工学研究科 前期博士課程

**ららぽーとマネジメント株式会社

***大阪市立大学大学院工学研究科 教授・工博

****大阪市立大学大学院工学研究科 講師・工博

*MasterCourse,Graduate School of Engineering,Osaka City University

**LaLaport Management Co.,Ltd.

***Prof.,Graduate School of Engineering,Osaka City University,Dr.Eng

****Lecturer,Graduate School of Engineering, Osaka City University,Lec.Eng